

特集 佐渡の学校統廃合と伝統芸能の継承

大合併した佐渡市は、厳しい財政難を理由に、合併前に島民に約束していた施策を見直し、支所の廃止、小中学校の統廃合、保育所・学校給食等の民間移行など行政改革をすすめている。

このことから生じる島の暮らし・地域経済の衰退は深刻さを増している。

そこで、佐渡島の地域再生の方途を探るため、05年以来、にいがた自治体研究所が、産業面・住民生活面・行財政面を、にいがた県民教育研究所は、学校教育の分野を、具体的な問題について調査・研究を共同してすすめてきた。

合併後の、子どもの育ちにどのような問題が生じているか、合併前の地域における学校の役割を改めて探り、住民の視点に立った地域再生、地域づくりの方向性を見いだしたい。いわば、地域住民の生活や文化的活動のなかで子どもが育つ教育的価値を明らかにできればと思う。

すでに、地域の方々の協力を得て、佐渡の学校統廃合の問題と関わって、郷土芸能や「あごだし」

づくりなどの技能の継承する小学校の取り組みを紹介した（本誌94号・100号・101号）。

今号は、さらに、子ども歌舞伎、鬼太鼓、中学校の鷲流狂言、文弥人形の活動も報告し、それらの学習が、子どもの成長、発達にどのように関わるか、その教育的な価値を探求したい。

本来ならば、次のような総括的な内容とすべきであるが、その中間報告の形で今号は3・4に関わる部分を掲載した。追って佐渡の人々の協力を得て包括的な論考を提起したい。

1. はじめに
2. 佐渡の自然と歴史
3. 佐渡の町村合併と大規模学校統廃合計画の実施
4. 学校における郷土芸能・地域文化の学習
5. 地域の協力・協同の子育てと地域の再生
6. まとめ

（編集部）